



自ら考え実践する力が ～勝利へと続く～

校長 矢崎 真理

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひいたします。

令和4年がスタートしました。私は毎年恒例のカウントダウンとともに部屋の窓を開けて、1月1日0時に横浜港停泊の船の汽笛を聴きました。今年は前年よりも大きな花火も上がり、新しい年が幕を開けました。

穏やかな天気にも恵まれた中、今年も1月2日、3日に箱根駅伝で競技役員をしました。今大会も「応援したいから、応援にいかない。」という言葉がポスターにも書かれているようにコロナ禍での2回目の大会となり「観戦・応援目的での外出をお控えください。」とお願ひしてきました。今年は沿道全体で60万人の人出で、令和2年の120万人の半分とはいえ令和3年の18万人の3倍強となりました。が、主催者側としてはおおむね目標を達成し、ご協力に感謝するとのコメントが発表されました。私がいたのは昨年に続き2区・9区の横浜駅東口付近で特に復路は、多くの観客が通過時間より2時間近く前から集まりました。密にならないというのはとても無理な状況でしたが、多くの方々は大きな声でおしゃべりすることもなく、選手を応援する時は声ではなく拍手をして称えてくださいました。給水担当の各大学の陸上部員が、感染対策のためマスク、ゴーグルなどを着けて使い捨て手袋をはめてペットボトルを2本握りしめる姿を静かに見守りました。選手の動きに合わせて全力でダッシュし、声を掛けながらボトルを手渡し、飲み終わったボトルを受け取り、遠ざかる背中に向けても激励の言葉をかけている給水員が戻ってきたときに、選手にしたのと同じような拍手が起こりました。10名の選手になれなかった陸上部員にもねぎらいの拍手が贈られたことに、うれしい気持ちになりました。テレビ放映され称えられる選手だけでなく、裏方に徹する学生が本選に出場できた20校はもとよりそれ以外の大学からも補助員として、約1800余名もが協力して大会を支えていました。

今年も青山学院大学が、出場登録選手16名全員10000m28分台という驚異のメンバーで、箱根駅伝に照準を合わせて優勝のみならず大会新記録を狙ってきました。その通りの展開になりました。しかし優勝インタビューを聞いていて、タイムだけではない強さなのだと思います。それは、選手一人一人が「課題や目標を自ら考えて行動」したことです。監督が与えるのではなく、選手自身が自分の頭で考えて行動する。思うだけではなく、行動する実践力が備わって、走りや気持ちの両面に揺るぎない強さが表れました。

岸谷小学校の子どもたちにも必要な力です。先生始め大人から言われて、言われたことだけをするのではなく、自分自身で考えて行動できる力を身に付けてほしいです。そのためには選手が日頃から考えながら練習を積み重ねたと同じように、小学生の場合は特に、基礎的な力を身に付けなければ学んだことを生かす実践力は生まれません。学校や家庭でいろいろな経験を積み重ねて、それらをもとに次へと進む。その積み重ねがあればこそと思います。6年生の総合学習での「子どもたち自ら考え、実践する活動」は、岸谷小学校の6年間の学びの結果を表し始めていると思っています。岸谷小学校での日々の積み重ね、毎年の積み重ねを経て「課題や目標を自ら考えて行動」できる子どもたちになってほしいと願っています。そのために今年も教職員一丸となって、岸谷の子どもたちを育てていきたいと思っています。保護者地域の皆様の見守り、ご協力をいただき、目標達成していきたくと思っています。感染力の強いオミクロン株の感染者が、急激に増え始めた新年にあって、まだまだ油断できませんが、学校は粛々と前へ進みます。

わたくしの恩師が戸塚中継所の責任者で「今年も自分が繰り上げスタートのピストルを打ったので、選手がかわいそうで切なかった。」とメールをくださいました。あと少しなのにタイムが足りず、襷を繋ぐことができない選手は皆、号泣します。「襷を繋ぐ」というのは、とてもとても大変なことなのです。

保護者の皆様、地域の皆様、関係の皆様、「チーム岸谷」として襷を繋ぐ仲間のように、今年も協力し合って結果を導き出せるよう、どうぞよろしくお願ひいたします。

人権月間の取組

12月の人権月間では、人権委員会を中心に、全校で挨拶運動やいいところボックス等の活動に取り組みました。また、全校で人権トークを行い、自らの人権感覚を磨きました。6年生は、「誰もが居心地のよい学校生活を送るために大切なこと」について話し合い、岸谷小学校のみんなが気持ちよく学校生活をおくることができるための標語を作り、全校児童に伝えました。

これらの取組を通して、「人権」についてじっくりと考え、「誰もが安心して暮らす権利が守られる世の中をつくっていく。」という意識を持ち続けていけたらと思います。



岸谷の未来を明るくした生麦マルシェ 6年生



11月28日と12月12日に、6年生の総合学習の活動として「生麦マルシェ」に参加しました。6年生の子ども達は、地域の一人としての自覚をもち、生き生きと活動していました。コロナの影響で日本の経済は大打撃を受けましたが、岸谷のまちは活気に満ち、これからますます発展していく岸谷の明るい未来がみえました。



各学年の様子



【1年】算数「ひろさくらべ」

学活と関連させ、皆が明るく楽しい気持ちになれるように折り紙の教室掲示をすることになりました。算数では、掲示をするための台紙の広さ比べをしました。身の回りのもので、折り紙や10のまとまりブロックの紙を使ったり、マスを数えたりして意欲的に調べることができました。



【2年】体力づくり「大縄」

記録を伸ばすため、中休みや昼休みも練習をしているのですが、つまずいてしまう友達に対して、「ドンマイ」や「惜しい」などの声をかけることができます。この大縄の練習を通して、クラス全体がまとまり、チームになっているので続けていきたいです。



【3年】生麦中ブロック 音楽交流会（動画）

リモートの活動が続く3年生ですが、今年度は音楽会も動画での交流となりました。「風になりたい」では運動会で作成したマラカスを使ってリズムカルに歌い上げました。合奏「カイト」では、リコーダーの他に様々な楽器を使用し演奏しました。始めて奏でる大きな木琴や鉄琴、パーカッションなどまるで高学年のような楽器の音色を楽しみました。



【4年】蛇も蚊も祭りの歴史を調べよう

社会「地域で受けつがれてきたもの」の学習で、生麦の伝統文化である「蛇も蚊も祭り」について、青木さんに話を伺いました。元は病を払うための行事として始まり、今ではまちの人達の仲を深めるという意味も持っていることが分かりました。そんな蛇も蚊も祭りを「これからも受け継いでほしい」という青木さんの願いについても、知ることができました。



【5年】サイバー教室

情報が多くあるこの社会の中で、どのように関わっていけばよいのかを考えました。よく使うアプリやゲームが実は、子どもは使ってはいけないものだったということを知り、驚いていました。実際に起きた事件を聞いて、ゲームや携帯電話は便利で楽しいものだけれど、使い方を間違えると危険なものになるということを知りました。



【6年】プラットフォーム

「ピアノと読み声～紋音～」のピアニストの伊藤慧さんとアナウンサーの竹平晃子さんに来ていただきました。国語の教科書の「帰りの道」を朗読と音読の違いを実践を交えながら解説していただいたり、ディズニーの曲に隠されている秘密などを教えていただいたりしました。音で感じることで物語の世界感をより広げられることを学びました。



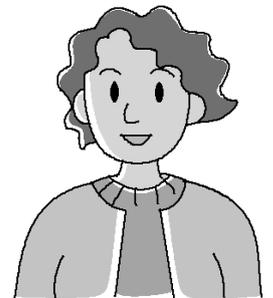
【5組】年賀状を書いてみよう

年賀状の書き方の学習をしました。今回は学校の交流級の担任の先生に向け、本物のハガキに書きました。書いたものを実際に投函するかどうかは各ご家庭にお任せになりますが、宛先の住所や名前の書き方、お正月ならではの挨拶の言葉などを知り、自分で書いて持ち帰ることができました。

中里智恵子先生の紹介

3、4年の算数少人数、4年の図工、書写を担当していた西澤先生が12月3日に退職され、その後を中里智恵子先生が引き継ぐことになりました。

「岸谷小学校のみんなと仲良く楽しく過ごしたいと思えます。よろしくお願いします。」



学校カウンセラー 教育相談のご案内

相談を希望される方は、担当前田までご連絡ください。

1月 20日（木）PM 21日（金）PM
31日（月）AM